

## 窓

「窓」に寄せる思い  
 「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」  
 小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

## 「新たな教師の学びに向けて」

次長兼総務管理部長 宍戸 喜孝

令和6年度は、新紙幣の発行やパリ夏季オリンピック・パラリンピックの開催など、様々なできごとが予定されています。皆様は、新しい年をどのように始めて、過ごしておられますでしょうか。

さて、令和6年度に向けて、福島県教育センターでは様々な取組を行っています。そのひとつに、福島県教育委員会が運用を始める研修受講履歴記録システム及び教員研修プラットフォーム（以下「Plant」という。）があります。皆様はご存じでしょうか。

初めに、Plantが導入されるまでの経緯を私なりにまとめてみました。令和4年度の教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部改正によって、教員免許更新制が発展的に解消され、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励制度」（以下「受講奨励制度」という。）が始まりました。受講奨励制度は、令和5年度から施行されていますので、対象となる先生方は、既に管理職等から受講奨励を受けていることと思います。

受講奨励制度に関する基本的な考え方を、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関するガイドライン」（令和4年8月 文部科学省）から、私なりにまとめると下記の2点になると思います。

## 1 先生方のこれまでの学びを可視化すること

研修履歴を活用することで、先生方が学びの成果を振り返ったり、自らの成長を実感したりすることが可能になると考えられます。また、これまで受けてきた研修の履歴が可視化されることにより、無意識のうちに蓄積されてきた自らの学びを客観視できるようになることが期待されています。

## 2 先生方の今後のキャリア形成を支援すること

研修履歴を活用することで、先生方がさらに伸ばしていきたい分野・領域や新たに能力開発をしたい分野・領域を見出し、主体的・自律的な目標設定やこれに基づくキャリア形成について考えることができることが期待されています。

受講奨励制度を推進するために、文部科学省はPlantを構築し、令和6年度から運用を開始します。福島県教育委員会も、令和6年度からPlantを活用することになりました。

次に、Plantの特徴を現時点の資料をベースにまとめると、このシステムは、大きく2つの機能を持っています。

## 1 研修受講履歴記録システム

国が主導して開発する教師の研修受講履歴を記録するシステムであり、効率的な記録作成、管理、閲覧を可能にするもの

## 2 教員研修プラットフォーム

教職員支援機構、教育委員会、大学、民間等が提供する研修コンテンツを一元的に収集・整理・提供するプラットフォームであり、いつでも、どこからでも必要な研修を受講できる環境を整備するもの

Plantは、インターネットのWebページに表示される、教員研修プラットフォームを操作することで、様々な研修の受講の申込、受講、修了確認ができる上に、教員研修プラットフォームを通して受講した研修は、研修受講履歴に自動的に入力されるということです。また、教員研修プラットフォームを操作することで、先生方が自主的に受講した研修を受講履歴としてシステムに記録できるということです。福島県教育センターでは、先生方の受講履歴記録の負担軽減を図るとともに、より研修にアクセスしやすくなるよう検討を続けています。

最後に、中央教育審議会では、今後の改革の方向性として、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要があると述べています。これからの研修は、変化の激しい時代において、教師が探究心を持ちつつ自律的に学ぶことと、教師が主体的に学びをマネジメントしていくことが前提となっていきます。福島県教育センターも新たな研修観に対応し、よりよい研修を提供できるよう努力してまいりますので、皆様方の御理解と御協力をお願いいたします。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行： 福島県教育センター  
 TEL 024-553-3141 (代表)  
 URL <https://center.fcs.ed.jp/>

〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地  
 FAX 024-554-1588  
 E-mail [center@fcs.ed.jp](mailto:center@fcs.ed.jp)

# 「教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方」について 三年間のチーム研究を振り返る

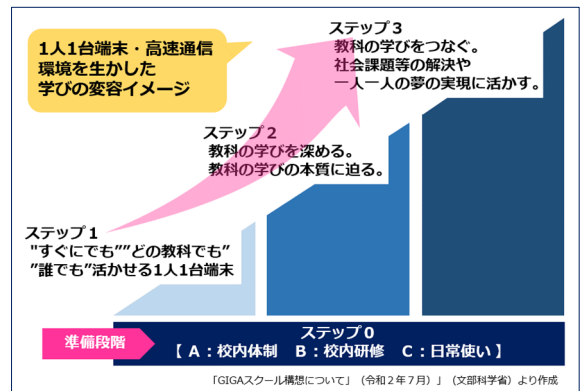
情報教育チームでは、令和3年度より「教育の情報化の推進に向けた1人1台端末活用の在り方」について、研究をしてきました。今年度は、教員や児童生徒のICT活用スキルの実態から、課題を明確にした校内研修を展開しました。本研究で定めた「ステップ0（A：校内体制、B：校内研修、C：日常使い）」を基に、本チームが実施している「福島県の情報教育の実態等に関する調査」※1結果から見えてきた課題とともに研究協力校での三年間の取組を振り返ります。

※1 令和5年5月19日（金）～6月15日（木）県内全公立学校682校で実施

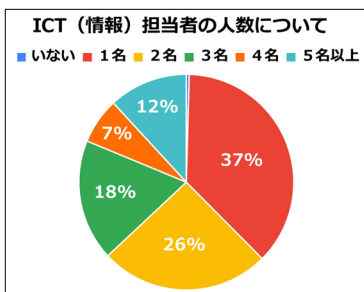
## 「ステップ0」とは？

GIGAスクール構想では、1人1台端末・高速通信環境を生かした学びの変容イメージを、右図のように段階的にステップ1からステップ3まで示しています。しかし、ICT活用について、教員や児童生徒の不安感や抵抗感、スキル不足などが懸念され、すべての学校がすぐに「ステップ1」に踏み出すことは難しいと考えました。

そこで、本研究では、1人1台端末の日常的な利活用を促進するために、「ステップ1」の準備段階として、校内体制の構築・校内研修の充実・日常使いを「ステップ0」と位置付け、研究協力校での取組と実践をスタートさせました。



## A：校内体制



～調査結果より～  
ICT（情報）担当者の人数が、1～2名の学校が63%であった。

### 【研究協力校】



研究協力校（小・中一貫校）でのICT推進チームの構成

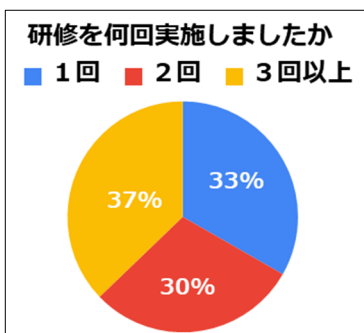


次のような効果も生まれました。

- 教員間の意識の統一や学び合い、教え合う雰囲気の醸成
- 前向きに活用する姿や若手とベテラン教員との交流
- ICT支援員と連携

研究協力校では、学校管理職が、教育の情報化およびICT活用の推進に向けてビジョンを示し、ICT担当者を5名配置、推進チームとして機能させたことで多くの効果がありました。ICT活用の推進に加え、現職教育部や生徒指導部など他の部署との連携を図ることでさまざまな教育課題の解決にもつながります。

## B：校内研修



～調査結果より～  
ICTに関する校内研修の実施回数について、年に3回以上実施した学校の割合は、37%であった。また、研修形態について聞いた質問では、一斉で行っていると回答した割合が、約9割を占める結果になった。研修内容について、最も多い回答がアプリやソフトの使い方であった。

### 【研究協力校】



～3年間で実施したICTに関する主な校内研修～

- 教育の情報化への理解（講義）
- ICT活用スキルに関するアンケート（調査）
- 授業支援ソフトの操作（演習）
- ICTを活用した授業と日常使いの構想（協議・演習）
- ICTを活用した授業場面の共有（協議）
- アンケートフォームと二次元コードの作成（演習）
- 動画付きアンケートフォームの作成（演習）
- ICT活用の提案授業研究会（実践）
- ICT・1人1台端末の校内利活用状況の共有（協議）
- 電子黒板と実物投影機の使用（演習）
- ICT活用スキルの調査結果の共有・実態把握（協議）
- チャットアプリの操作（演習）
- クラウドを利用したデータの送受信（演習）
- ファイル共有の方法と共同編集の体験（演習）
- 授業や日常使い、校務での利活用（実践）

研究協力校では、ICT推進チームを中心に、研修回数を確保し、研修形態や内容などを工夫して、校内研修を展開しました。



## 研修計画

### 【令和5年度 校内研修計画】

- 5月 教員・児童生徒のICT活用スキル調査の実施  
※提案授業研究会（現職教育部主催）  
研修会に向けたICT推進チーム検討会
- 6月 第1回ICT校内研修会  
1人1授業の実践スタート
- 7月 ICT活用スキル調査の結果の共有及び実態把握
- 10月 研修会に向けたICT推進チーム検討会
- 11月 第2回ICT校内研修会  
※提案授業研究会（現職教育部主催）
- 12月 研修会に向けたICT推進チーム検討会
- 2月 第3回ICT校内研修会
- 3月 ICT推進チーム検討会

## ICT活用スキルの実態調査



### ICT活用スキルチェック表 8項目

- ①教師による教材の提示や配布
- ②個に応じた学習
- ③調査活動
- ④思考を深める活動
- ⑤発表や話し合い
- ⑥協働での意見整理
- ⑦協働制作
- ⑧学校の壁を越えた学習

「福島県版ICT活用ハンドブック2022（令和4年10月福島県教育委員会）」のICT活用スキルチェック表を参考に、教員・児童生徒用の質問を作成し、実態調査を行いました。全職員で実態を把握し、課題を共有し、解決に向けて取り組みました。

## 第1回研修会

・1回目は、電子黒板や実物投影機、学習支援ソフトなどの基本的な操作方法について、演習を交えながら研修を行いました。内容について、事前に要望を聞き、各先生の疑問や質問に答えるなどニーズに合った研修内容を組立てることができました。

質問・研修会の内容への要望など

電子黒板のカマウで写真を撮ったりどうやって見るといいかわかりません。教えてください。

電子黒板を使ってできることを基本的なことを一通り教えてください。

アプリ関係、デジタルホワイトボードなど基本的なところでよろしくお願ひします

DVDを見せたい。HDMIにつなげたい。

タブレットの持ち運びの件について、教えてください。

研修の様子

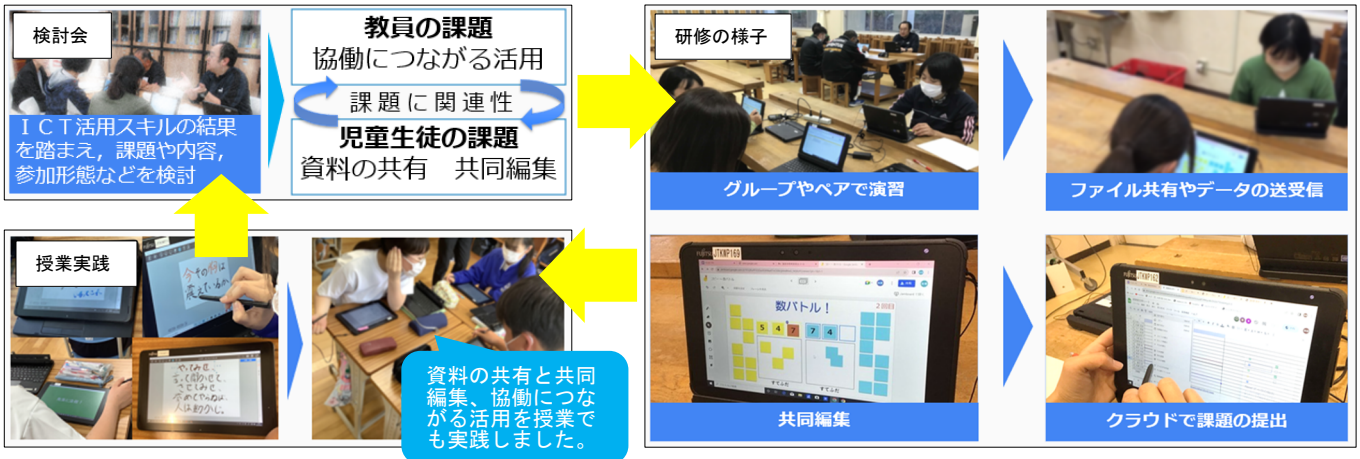
電子黒板の使い方

実物投影機の撮影方法

- 参加形態は希望制
- 研修内容は事前に要望を調査
- 時間は30分程度

## 第2回研修会

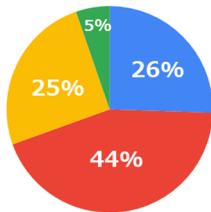
・2回目の研修会に向けて、教職員全体で教員・児童生徒のICT活用スキルの結果を共有する場を設け、その結果から課題を明確にするために、チームで検討会を実施しました。課題を解決するために、内容や参加形態なども工夫して研修を行い、研修で学んだことを生かして各教員が授業でも実践しました。



## C：日常使い

### 教科指導以外（日常使い）での1人1台端末の使用状況について

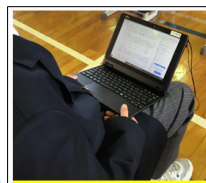
- よく利用できている
- 学年でばらつきがある
- あまり利用できていない
- 利用できていない



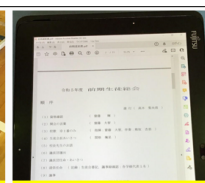
### 【研究協力校】

1人1台端末持ち帰り  
朝から使用できる環境

日常使い  
よく利用できている



学校行事にタブレット端末を持参



資料はペーパーレスで端末に配付



配付物や掲示物などに二次元コードの活用

～調査結果より～

日常使いでの1人1台端末の使用について、学校全体でよく利用できていると回答したのは、26%であった。

研究協力校では、3年間のICTに関する校内研修や授業での1人1台端末の利活用の積み重ねが、教員・児童生徒の日常使いの促進につながりました。今年度は、学校行事に1人1台端末を持参したり、資料などのペーパーレス化や配付物、掲示物などに二次元コードを活用したりと、様々な教育活動の場面で活用し、利活用の広まりと定着を見ることができました。

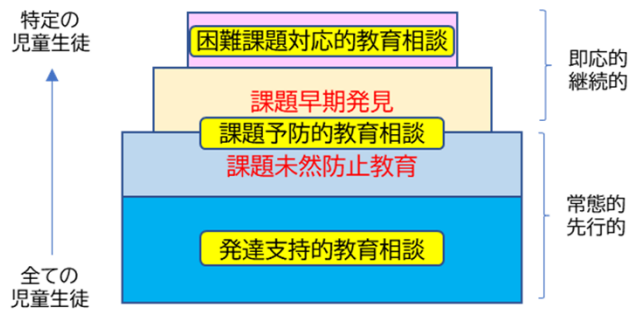
研究協力校では、ICT推進チームを中心に、**校内研修を活性化させ、授業・日常使い・校務で利活用の好循環を生み出す**実践を積み重ねていくことで、校内の教育の情報化を推進させ、**教員のICT活用指導力の向上と授業改善、児童生徒の情報活用能力の育成**を図ることができました。  
詳しくは、福島県教育センター 研究紀要 第51・52・53集をご覧ください。



## 令和6年度 教育相談系専門講座

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書である『生徒指導提要』では、学校における生徒指導・教育相談を進める上で、右図のような四層での指導・支援が求められています。

本県の児童生徒の実態を基に、四層の指導・支援を行う上で求められる資質の向上を図るため、以下の専門講座を設けています。先生方の受講をお待ちしております。



### 学校教育相談基本講座

実施日：令和6年8月2日(金)

- ◇1日の講座です。
- ◇午前は、学校教育相談の基本と相談面接における技法について学びます。児童生徒だけでなく保護者対応でも役立つ技法です。
- ◇午後は、Q-Uによる個人理解や集団理解のアセスメントの仕方を、外部講師による講義・演習を通して学びます。



### 学校が変わる!解決志向で取り組む学校教育相談実践講座

実施日：令和6年11月11日(月)

- ◇1日の講座です。
- ◇支援が必要な自校の児童生徒について、多角的・多面的に、そして解決志向の視点で指導・支援の方向性を検討します。一事例30分で検討できるチーム会議の手法を紹介します。実際にその手法を用いて事例検討を行い、体験を通してスキルアップを図ります。



### 体験的に学ぶ人間関係づくり講座

実施日：令和6年9月9日(月)

- ◇1日の講座です。
- ◇学級・ホームルーム等で活用できる、よりよい人間関係を育むための教育相談の手法(構成的グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング等)を、外部講師による講義・演習を通して体験的に学びます。



### スマホ時代のいじめの理解と対応講座

実施日：令和6年10月17日(木)

- ◇1日の講座です。
- ◇午前は、いじめ防止対策推進法の理解を通して、いじめの認知や早期発見、対応の仕方等について学びます。
- ◇午後は、困難な事例についての対応や未然防止教育を、外部講師による講義・演習を通して学びます。



### 不登校の理解と対応講座

実施日：令和6年9月25日(水)

- ◇1日の講座です。
- ◇本県において不登校児童生徒の増加が喫緊の課題です。
- ◇不登校に関する識者を外部講師としてお招きし、不登校児童生徒及び保護者に対する指導・支援の在り方や、実際に不登校児童生徒に関わる際の技法等を学びます。



### 適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座

実施日：令和6年7月29日(月)

- ◇1日の講座です。
- ◇情報教育チームと一緒にそれぞれの得意分野を生かした講座を行います。
- ◇楽しいコミュニケーションの在り方などについて、ワークショップ形式で考えます。これから必要となる新たな情報モラル教育の指導法について学びます。



## 一人一人の成長を促すためのチーム学校での教育相談（第二年次） —教育相談コーディネーターを軸とした教育相談の実践を通して—

### 1 どんなことに取り組んだの？

研究協力校のA小学校とB中学校において、すべての児童生徒を対象にしたプロアクティブな教育相談（以下、先手型の教育相談）に、教育相談コーディネーター（以下、教育相談Co.）が中心となり、学校全体で取り組みました。それぞれの学校の実態に応じて作成した年間プログラム※を基に、教育相談Co.が、「校内研修の実施」、「ニーズの把握」、「相談活動の計画・立案」の三つの職務を実践しました。



〈縦割りでの「ぎょうざじゃんけん」〉〈グループでの「いいところさがし」〉

※短時間（15分程度）で実施するソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを、月に1〜2回程度年間を通して行う活動計画

### 2 研究の目的は？

上記の実践を通して、教育相談Co.が、チーム学校の要としてどのように機能すれば、児童生徒一人一人の成長を促すチーム学校での先手型の教育相談が充実するかを探りたいと考えました。

### 3 教育相談Co.はどのように機能したの？

#### A小学校

【年間プログラムを隔週で同じ時間に全校で実施】

#### 教育相談Co.の機能

- ① 全体で共通理解を図る  
○年度始めに取組の共通理解を図る校内研修の実施  
○学期末に取組の改善を図る校内研修の実施
- ② ニーズの把握を活動につなげる  
○次の活動につなげるための、既存の会議（生徒指導協議会等）を活用した教職員のニーズの把握
- ③ 活動のねらいを共有化する  
○把握したニーズを基に、ねらいを明記した年間プログラムの活動案の作成

#### B中学校

【各学年・学級が設定した時間で年間プログラムを実施】

#### 教育相談Co.の機能

- ① 全体で共通理解を図る  
○年度始めに取組の意義や、年間プログラムの活動の進め方を共通理解する校内研修の実施
- ② 振り返りを改善につなげる  
○次の活動につなげるための、アンケートソフトでの全教職員の振り返りの集約
- ③ ハブ役として人と人をつなぐ  
○活動の実施に向けた、教職員同士や外部機関とをつなぐ連絡調整

その結果・・・



教職員が共通理解の下、同じ方向を向いた  
チーム学校での先手型の教育相談が展開できました！



### 4 児童生徒の成長につながったの？

〈教職員の声から〉

- ・全学年とも進んで挨拶ができるようになった。友達のよさを見付ける児童が増えている。
- ・生徒同士、教師と生徒のコミュニケーションがより密になった。
- ・校内文化祭で互いを称賛したり、感謝したりする姿が見られた。
- ・以前より班の中での話合いがスムーズに進められるようになった。話すことへの抵抗感が少しずつ減ってきた。
- ・積極的に活動する姿が見られるようになった。
- ・ふだんは、なかなか友達と活動できなかった児童が、自然と友達の輪に入って、楽しく活動していた。

児童生徒一人一人の成長を感じる場面をたくさん見取ることができました！

## 教員研修チームからの発信

令和6年度に福島県教育センターで実施を予定している、小学校社会科、中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科の専門研修について紹介します。

### 「地域素材の教材化を通して授業が楽しくなる社会科講座」

期 日	令和6年7月22日(月)～23日(火) の2日間研修
対象者	小学校・中学校・特別支援学校の社会科の教員 定員:16名
内 容	○講義「地域素材を生かして児童生徒の思考力・判断力・表現力をどのように育むか」 ○協議・演習「地域素材を生かして児童生徒の興味関心を高める授業づくり」

地域素材の教材化を通して、各地域のもつ独特の性質である「地方的特殊性」と他地域にも見られる「一般的共通性」とに気づかせていく授業づくりの研修を行い、単元を構想する力と授業力の向上を目指します。講師の先生方にも協議・演習に参加していただき、単元の作り方や資料の収集、活用の仕方、効果的な ICT の活用の仕方などについて学びます。

### 「地理歴史科における地理総合・歴史総合の授業づくり講座」

期 日	令和6年8月6日(火) の1日研修
対象者	高等学校・特別支援学校の地理歴史科・公民科の教員 定員:12名
内 容	○講義・協議「社会的な見方・考え方を働かせた授業」 ○講義・演習「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業づくり」

地理総合と歴史総合の授業を中心に、参加する先生方の授業実践を基にした協議や情報交換を通して諸資料の活用事例や授業づくりの新たな視点を得ることを目指します。また、**産業能率大学の皆川雅樹先生**を講師にお迎えして、演習を含めた講義を通して効果的な発問の在り方や組み立て方などについて学び、授業力の向上を目指します。

### 「社会科・地理歴史科・公民科における社会に参画する力を育成する授業づくり講座」

期 日	令和6年8月26日(月) の1日研修
対象者	中学校・高等学校・特別支援学校の社会科、地理歴史科・公民科の教員 定員:12名
内 容	○講義「社会に参画する力を育成する学習指導の在り方」 ○協議・演習「社会に参画する意識を高める授業づくり」

「社会に参画する力の育成」をテーマとした中学校、高等学校、特別支援学校の先生方が集まる研修です。**筑波大学の唐木清志先生**を講師にお迎えして、「社会に参画する力」を育成するための観点や当事者意識の持たせ方などについての講義をいただきます。また生徒の社会に参画する意識を高めることをテーマに授業研究を行い、授業づくりの視点について学びます。

### ～～参加した先生方の感想～～

- 一つの授業を複数の教員で作りに上げていくという過程はとても刺激を受け、楽しいものでした。このような機会があればまた参加してみたいです。
- 久しぶりの対面での講座となり、講師の先生や中学校・特別支援学校の先生方とのやり取りなど、とても新鮮であり、学ぶことが多い講座でした。
- 初対面の先生方の、それぞれに工夫された取り組みや、自分にかけていた視点などの気づきを得ることができ非常に有意義でした。
- 授業作りは単元全体で考えていくことが大事であること、そして学習指導要領を読み、学習評価を考え、学習活動を考えていくことが大事であることが分かりました。

先生方のご参加、お待ちしております。

## 体育・保健体育科 専門研修講座紹介

令和5年度に教育センターで行いました、体育・保健体育の専門研修講座について紹介します。これらの講座は、次年度も実施を予定しています。

### 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座【小・中・高・特支】

現在、インクルーシブ教育システム構築に向けた整備が進む中、特に体育・保健体育の授業では、障がいの有無に関わらず、だれもがその能力を発揮し、共に認め合い支え合う授業の充実が求められています。しかし、学びの場の工夫や教材・教具の開発を、担当する教員のみで抱え込むことは負担が大きいものです。そこで、東海大学体育学部 教授 内田匡輔先生を講師として、「多様な支援を必要とする児童生徒への体育指導」、「運動が苦手な児童生徒に対する授業づくり」について、講義を行いました。まずは、アダプテッド（適合する・適応する）・スポーツについて法的な知識と理論を学び、その後、アダプテッドの合理的配慮や進め方について考えを深めました。

実践編では、導入（体づくり運動）・基礎（ネット型スポーツの展開）・応用（バレーボールを例）とステップアップしながら、物理的環境の工夫・用具の調整・仲間同士の援助を中心とした授業の構築について実践力を高めました。

研修のまとめとして、体育の授業を行うことは「できない」ことを確認する時間ではなく、「できること」を見つけ、広げ深める時間であるとお話がありました。今後も、体育・保健体育の授業を通して、社会で誇りをもって生きられる児童生徒の育成を目指しましょう。



### 1人1台端末を活用した保健体育の授業づくり講座【小・中・高】

体育・保健体育の時間に端末を活用することは、客観的に自分の動きを確認したり、動きを修正したりすることに効果的です。しかし、基本研修における受講者の声には、ICT活用の方法や場面、活用ソフトを知りたいというものが多く、ICT活用については差があることが現状です。

そこで、11月10日（金）に、1人1台端末を活用した保健体育の授業づくり講座を行いました。現場の小・中・高からそれぞれ講師の先生をお招きし、普段の取り組みを紹介していただいたあと、Google workspace や Kahoot! の活用について演習を行いました。児童生徒はもちろん、受講された先生方も楽しめる内容で、体育・保健体育はもちろん、他教科でも活用できそうですという意欲的な感想が多く寄せられました。



#### 【参加者の感想】

- これからすぐ生かせることばかりで参考になりました。自校に戻って他の先生方にも広げていきたいと思えます。
- すぐに実践できる内容だったので、次の授業からでも実践してみたいと思えます。

# 令和5年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島の 教育をつくる ～

令和5年11月22日(水)、福島県教育研究発表会を開催しました。

県内各学校の教諭等による優れた教育実践や研究の発表、また、当センター指導主事や長期研究員による研究成果等の発表を行いました。さらに、講師として岩手大学教育学部 准教授 久坂 哲也 氏をお招きして、講演「『メタ認知』に働きかける授業づくり」を行いました。

当センターでは初めて、発表をオンデマンド動画で行い、質疑応答をオンラインライブで行うという形式で行いました。参加した皆様から寄せられた御意見や御感想は、今後の参考にさせていただきます。

なお、各発表の概要は、当センターWebサイトの福島県教育研究発表会のページに掲載しました。ぜひ御覧ください。

## 参加者の声

- 普段の授業の中で取り入れてみたいと思う授業実践をたくさん知ることができ、とても学びになりました。ありがとうございました。
- 動画配信型で参加しやすく、とてもよかったですと思います。お世話になりました。
- 校種をまたいだ研究を見ることができ、とても参考になった。学んだ中で実践できそうなものを取り入れていきたい。

御後援を賜りました福島県小・中学校長会、福島県高等学校長協会に、また、研究発表をいただきました発表校の皆様には厚くお礼申し上げます。

令和6年度福島県教育研究発表会（予定）  
令和6年11月21日（木） 9時50分開会

## 令和6年度研修講座受講案内をWebサイトに掲載しました

本誌でも研修講座の紹介をしておりますが、当センターではその他にもたくさんの研修講座を準備しています。これまで、研修講座案内は各学校へ冊子で配布しておりましたが、情報端末の普及に伴い、Webサイトへの掲載のみにしました。教育センターの研修を受講される方は、教育センターWebサイトをチェックしてください。

### 校内研修の充実のため、 教育センターの出前講座はいかがですか

教育センターは指導主事を学校等に派遣する「出前講座」を実施しています。「授業改善のポイントを学びたい」「ICTを活用した教科指導の研修をしたい」などの校内研修をお考えの方は、教育センターWebサイト「出前講座・カリキュラムセンターのご案内」にアクセスしてみてください。オンライン研修も可能です。

○受付は実施日の3か月前からですが、新年度（5月から実施）の受付は4月1日からです。

### 来所時の御注意

教育センターに自動車で来所する場合は、仮設道路を通行することになります。仮設信号があり、進入・退出に時間がかかることがあります。来所する前に、当センターWebサイトから御確認ください。



<https://center.fcs.ed.jp/>